

ワイルドサイエンスとしての経済学

日本学術会議公開シンポジウム
「生物多様性からみたワイルドサイエンス」

2022.2.26

慶應義塾大学 大沼あゆみ

ワイルドサイエンスでの経済学の対象

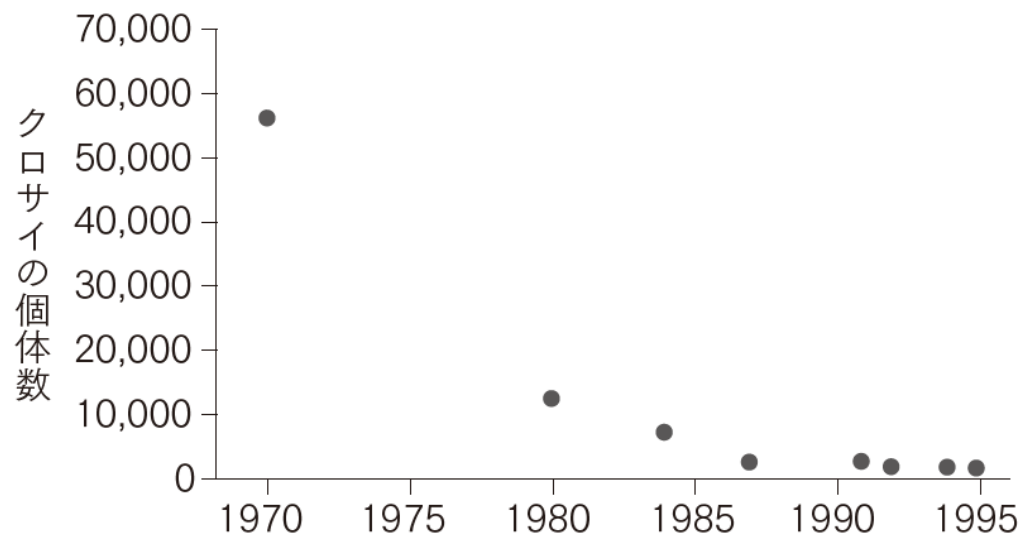
野生動物の過剰利用や生態系劣化に対処

- 適切な利用規制の導入の是非
 - 総量規制と手段、利用禁止
- 費用効果的な生息地保護～持続可能性
 - Wildlife forensic～効果を向上
- 経済評価による野生動物の価値の導出
 - 価値をマネーで可視化して重要性を示す

野生動物の経済学的特徴

不法市場の存在

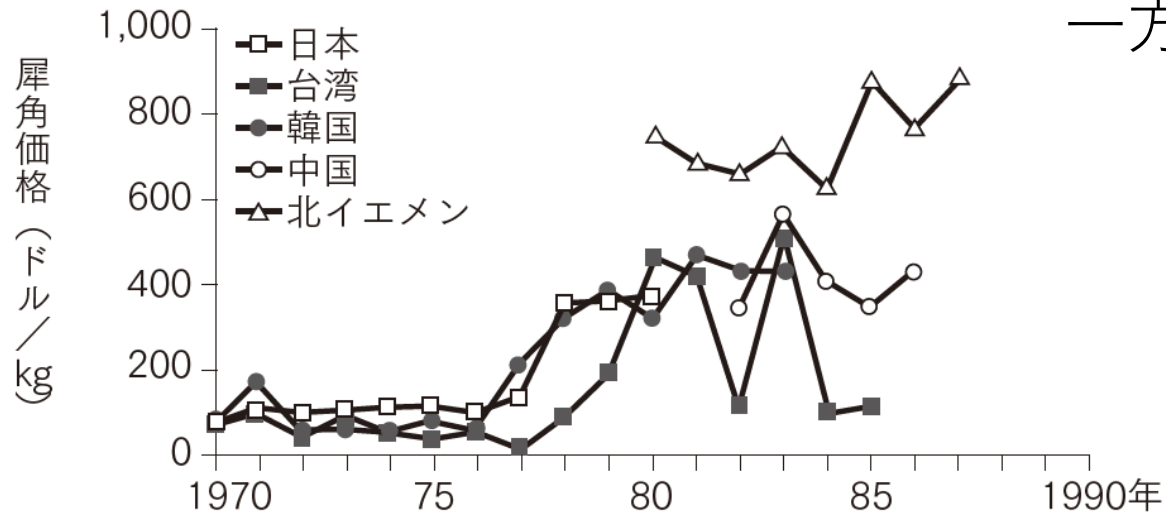
- 野生動物の取引規制
 - ワシントン条約～取引禁止、取引制限
 - 不法市場がなければ適切
- 規制が厳しいと稀少性が高まり価格が上昇
 - 密猟等の不法行為の誘発→不法市場が発生
 - 不法市場の直接管理は困難
- 不法市場の価格が高騰すると密猟が激化



*犀角～薬として根強い需要

クロサイは、1977年に取引禁止（CITES附属書I移行）された。

すると、犀角価格は急上昇し、一方、個体数が激減した



（出所） Leader-Williams (2002).

解決のポイント～不法市場の価格を下げる

- 不法市場の需要を減らす方策
 - 監視の強化や啓発
 - コスト、効果
- 合法取引を認めることが有効である可能性
 - ストックされている犀角の活用
 - (+) 需要が合法財に吸収される→不法市場の犀角価格を下げる
 - (+) 収入が発生→保護費用に
- 2012年、南アフリカ政府で犀角において検討された
 - (-) 新たな需要を創出することのリスク
 - 経済学的な検証が必要

他の野生動物

- アフリカゾウ
 - 象牙の取引禁止（1989年）が効果を持った
 - 象牙の他の材料との代替可能性
- チョウザメ～キャビア
 - ストックを利用できない
 - 大口の需要者（先進国のレストラン）を規制するのが効果的
- 霊長類の幼獣
 - 取引を認めるべきではない
 - 生息地での保護のためのファイナンスング

野生動物の経済的特徴に沿った効果的手段の工夫＋自然科学的知見
～経済学の役割